

大畑八幡宮



最初は深山の地(大畑町湯坂下から薬研へ行く途中の大畑発祥の地とされているあたり)に祀られていたが、材木の搬出量が多くなるにしたがい、人家も本町・南町の方に形成されるようになり、慶安元年(1648)、深山より現在の社地に還された。深山神社は、大畑八幡宮の奥の院とされています。

その後、再建、焼失を繰り返し、昭和 42(1967)に改築され、さらに平成 10 年(1998)遷座 350 年にあたり、社殿が再建されています。

また、大畑八幡宮は「正一位八幡宮」と言われています。享保 10 年(1725)、京都の吉田家より「宗源宣旨」の許状を授かってからとされています。

鎮座地	むつ市大畑町南町 46 番地	
祭神	誉田別命	応神天皇
	息長帯比売命	神功皇后(応神天皇の母)
宝物 伝承 その他	後醍醐天皇宸筆の小色紙	御製の和歌(掛け軸) 「したもちみ かつちるやまの ゆうしくれ ぬれてやしかの ひとりなくらむ」
	あわび貝	<u>海上安全の守神</u> 寛政の頃、幕府御用船「政徳丸」が江戸へ上る途中、房州沖で嵐にあい、船底に穴があき、沈没しそうになった。船頭「長川仲右衛門」が必死に神に祈ったところ、不思議なことに浸水が止まり、急いで近港に入って調べたところ、船底の穴を大きな「あわび貝」が塞いでいました。これは神のご加護によるものだと感謝し、伊勢神宮へ奉納。貝殻を家宝として持ち帰り、大畑八幡宮へ奉納したところ、「太神宮」という文字が浮き上がってきたとされる
	奥院の左右には、廃止になったり、合祀された神社が祀られている。 天照皇太神宮・若木大明神・中嶋稻荷大明神・船橋稻荷大明神・蘇生稻荷大明神	